

(1) はじめに (図表1)

日本透析医学会の年末調査は、過去50年以上にわたり現況報告として、わが国の透析療法の文字通り現況を明らかにしてきました。わが国の透析療法の断面調査だけではなく、経年的な変化も明らかにしてきた、世界にも例を見ない規模・歴史をもった調査です。これも、ひとえに全国の透析施設や、透析従事者の方々のご尽力の賜物であり、この場を借りて深く感謝申し上げます。

さて、こうした年末調査により収集された貴重なデータを、透析医療に還元すべく、統計調査委員会では、2008年度から公募研究・委員会研究として、年末調査データをもとにした解析を積極的に進めてきました。これらの疫学研究によって得られた成果から、透析患者の予後・QOLなどさまざまなアウトカムと関連する要因・治療様式が明らかにされてきました。さらに、これらの成果には日本透析医学会が作成した診療ガイドラインの作成根拠として使用されたものもあります。

2015年末調査の図説現況からJRDR (Japanese Renal Data Registry) ハイライトとして、現在までにJRDRデータベースを基にした解析によって明らかにされた英語論文についてご紹介いたします。

現在まで、年末調査をもとにした英語論文は表に示すように39報が報告されています。今年はこの中から10報を選択し、その概要、要因やアウトカム、代表的なfigure、さらにはその解析が行われるに至った背景や、論文の意義について、実際にその論文に携わった解析小委員が中心となって、ご紹介いたします。本企画が、年末調査にご協力をいただいた会員の方々にとって、わが国の透析患者から得られた英語論文を理解する上で、有用なものになれば幸いです。

公表年	論文数
2007年以前	4
2008年	2
2009年	2
2010年	1
2011年	2
2012年	5
2013年	4
2014年	8
2015年	11
計	39

主な対象領域	論文数
CKD-MBD	8
透析導入	8
循環系・血圧管理	4
透析液水質管理	3
電解質・酸塩基平衡	3
栄養・炎症	3
透析管理	3
貧血	2
手根管症候群・アミロイドーシス	2
総説・その他	3

収載誌	論文数
Ther Apher Dial	14
Nephrol Dial Transplant	7
Am J Kidney Dis	3
PLoS One	3
Clin Exp Nephrol	2
Kidney Int	2
Kidney Int Suppl	2
Am J Nephrol	1
Blood Purif	1
Clin J Am Soc Nephrol	1
J Bone Miner Metab	1
J Ren Nutr	1
Nephron Clin Pract	1



いずれも各年末の現況報告は含まず

解説

2008年度から公募研究制度を開始し、徐々に公表論文数が増加しているのが分かる。特に、2014年度からは公募研究および委員会研究の結果が相次いで報告されている。

収載誌については、機関誌であるTherapeutic Apheresis and Dialysis誌をはじめとして、Kidney International誌、American Journal of Kidney Disease誌、Nephrology Dialysis Transplantation誌といった、腎臓・透析領域における国際的評価の高い雑誌にも、複数の報告が掲載されている。

対象領域については、透析導入や管理に関する報告が最も多く、さらにCKD-MBDや腎性貧血、手根管症候群やアミロイドーシスといった透析患者特有の合併症など、さまざまな分野にわたって検討が行われている。

このような幅広い分野において年末調査の結果が活用され、実際の透析医療に還元されるとともに、各領域の診療ガイドラインにも活用されている。